

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2491000077		
法人名	有限会社 福祉オフィス中村		
事業所名	海岸通り グループホーム南風		
所在地	三重県尾鷲市新田町21番地5号		
自己評価作成日	平成27年11月24日	評価結果市町提出日	平成28年1月19日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kajokensaku.jp/24/index.php?action_kouhvu_detail_2015_022_kani=true&JigvosvoCd=2491000077-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 27 年 12 月 7 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中で活気のある日常と本人本位の生活を大切にし、開放的な環境の元、利用者が可能な限り能力を維持、向上出来る場所である支援をすることに力を入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

山と海が一望できる高台に立地し開放的な環境である。「家庭的な環境と地域住民との交流のもとで・・・」と事業所の目的にあるように、管理者・職員一同、日々の関わりの中で、明るく家庭的に過ごしていただく事を支援し実践している。近隣の地域の方も協力的で、職員が積極的に近隣の人に声をかけ信頼関係を得る努力をしている。訪問時、テラスで健康体操をしている利用者の表情が良く、食事の後、居間や廊下で歌を口ずさむ方が多く、穏やかな表情をされていた。入居時、歩行できなかった方が、無理なく動いていただくことに取り組み、今では全員が歩行されている。利用者の個々の能力に応じ自立した生活ができることを支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念、事業所の目的を管理者、職員が理解し、共有をし合い、適切なサービスを提供出来るように努めている。	事業所の目的である家庭的な雰囲気を大切に、利用者個々に応じた支援を実践している。会議等においても常に理念を確認し合い、共有・理解を深めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣住民との日常的な交流を持てるよう積極的にいき、日頃から地域の催し物等に参加している。	子供会・事業所共催の夕涼み会を開催、地域の多数の参加で楽しんだり、老人会の催し物に利用者の作品を出展する等地域との交流を図っている。また、「認知症」を理解していただくため事業所を開放的にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に向けた研修等は、行っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、必ず開催している。事業の取り組み状況等の説明と報告を元に委員からの意見、要望等を運営に反映し、質の向上に活かしている。また、地域からの情報等も取り入れ、サービスの向上に努めている。	運営推進会議では、事業所の状況・取り組みの報告を元に話題が広がり、委員から情報・意見が活発に出されサービス向上に活かされている。会議後には利用者と交流を行っている。次年度には他職種の参加を募ることを考えている。	見守り・協力者として、警察署や消防署にも参加をいただく等、更なるサービス向上に活かされる取り組みを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	広域連合、市担当者、包括支援センター職員と連絡を取り、協力体制を築けるよう努めている。	市町担当者から運営会議で情報提供や助言を得ており、協力関係を築くよう取り組んでいる。また、包括支援センター主催の研修に職員が個々に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルの作成をしている。内部研修等で職員間の理解を深めている。身体拘束は、行っていない。	職員には、常に身体拘束をしないケアの意識づけを行っている。マニュアルを作成し、身体拘束をしない工夫をしたり、ヒヤリハット事故報告書を回覧共有し、検討を重ねている。戸外への徘徊傾向の方には、安全確保をしながら束縛しないよう見守りをしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルの作成をしている。内部研修等で職員間の理解を深めると共に介護負担の軽減を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社会福祉協議会、包括支援センターとの連携を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	分かりやすい言葉を使い、丁寧な説明を基本とし、不安、疑問等に真摯に対応出来るよう配慮している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	全職員は、家族との関わりを大切にし、要望、苦情等を表しやすい雰囲気作りと信頼関係を育めるよう努めている。本人や家族からの意見を理解し、運営推進会議に反映している。	家族の面会の頻度が多く、その都度近況報告を行い意見・要望を伺っている。また、職員・協力医参加での家族会を開催、意見を聴く機会も設けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回以上の会議を実施。意見交換、提案がスムーズに行われている。会議欠席者がいる場合、会議内容の共有、欠席者の意見の吸い上げに努め、全職員の意見を参考に反映している。	月2回の定例職員会議や、常日頃から言いやすい雰囲気をつくっており意見が述べられている。また、管理者による年2回の面接を設け意見を吸収、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に個人面談を行い、自己評価や目標設定、意見交換を通じて職員のモチベーションが維持出来るよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修(人材育成等)に参加。習得した事を内部研修に反映し、実践している。職員一人一人の熟成過程の段階を理解出来るよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所の運営推進会議に出席している。他事業所との意見交換や参考事例等、多角度からの視点を持ち、サービス向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	個別支援を主に利用者の要望や不安要因を察しながら本人の意向に沿い、日常生活が送れるよう支援に取り組んでいる。何気ない会話の中から安心出来る空間の確保に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と利用者の関わりを大切にしながら家族の思い、要望等、しっかりと傾聴する体制を整えている。家族と職員との関係作りにも努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族からの情報、本人の状態を元に把握し、現時点で必要なサービスを家族と一緒に検討出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人としての関わりを大切にしている。職員は、家族に近い関わり、考え方をもち、又、個別で楽しみを持って、個性的な日常生活が送れるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人が家族を思う気持ち、家族が本人を思う気持ちを関わりの中から察し、絆を繋ぐ役割が持てるよう心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元のお祭りや催し物に積極的に参加している。以前より関わりのある商店との継続、家族との外出、外泊も自由に行っている。開放的な環境作りに努めている。	地元のお祭りや馴染みのお店に出かけ、知人と出会う機会を大切に、関係が途切れないようにしている。また、利用者が家族等への便り(かもめーる)を作成・投函する等、つながりを継続できるよう支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関わりを尊重し、職員は、状況の把握に努めながら適切なサポートを実践している。共同生活という環境の中で個々にお互いを認め合える関係作りに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設の催し物等に声を掛け、気軽に訪問、相談がしやすい環境作りに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との関わりを密に持ち、日常生活の中から本人の思いや意向をくみ取っている。個々の視点を持ち寄り、職員間で検討する際に反映、本人本位に努めている。	毎日午後に利用者個々に対話する時間を設け、一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。また、個別入浴や歩み寄ってくる場面等、日々の行動や表情で思いを汲み取っている。スキンシップも大切にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や馴染みの深い方、本人からの情報を元に生活歴を把握し、共同生活の中からも発見出来るよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人の自由な時間を確保し、共同生活でのストレス軽減を図っている。日々、意向や出来る事を探し、有する能力の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃から家族と現状を共有し、思いや意向に触れている。本人との関わりの中から全職員が提出したモニタリングを反映し、現状の課題を抽出し、適切な介護計画の作成に努めている。	介護計画の見直しの時期に家族と連絡を取り、利用者を含めて話し合っている。遠方の方は電話で相談している。職員の気づき・アイデアは日誌に記録・マーキングし、ケアマネの計画の参考にして検討を行い、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の意思、意向等が読み取れる記入の仕方を意識し、職員間で共有出来るよう努めている。日々の細かい記入を元に会議で介護計画、ケアの見直しに役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況、意向を主に家族との連携を図りながら理解を深めていだけるよう努めている。必要に応じて柔軟な対応を心がけ、既存のサービスには捉われていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣住民の協力を得て日常的な関わりが持てている。近くの学生や住民との関わりを大切に、開放的な暮らしを楽しめるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診、往診で適切な医療を受けられ、利用者と家族、かかりつけ医との関係が築けるよう努めている。	本人・家族と相談し、かかりつけ医を決めている。協力医とは、24時間体制で良好な関係を築いており、適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の看護師に相談している。情報意見交換等で連携を図りながら必要に応じて適切に支援している。また、協力医の指導を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院担当のケースワーカーと情報の共有、意見交換に努め、利用者の理解を深めると共に安心して治療が出来るよう配慮している。担当看護師も同様、関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、家族との話し合いを持っている。希望があれば、可能な限り看取りまで行いたいと思っているが、まだ、該当者がいない。	重度化や終末期支援、看取りまで行う方針を考えており、職員の受け入れ姿勢もあるが、現在その段階の該当者はいない。状況変化に応じ、家族と話し合いながら個々の対応をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、職員間で把握出来ている。想定を拡げ、研修の中で実践力を身につける必要はある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、定期的に防災訓練を実施している。消火訓練、避難訓練、夜間想定訓練を実践。近隣住民の協力を得ている。災害時等の地域の避難場所にと考えている。	消防署協力の下、年2回防災訓練を実施しており、市の防災避難訓練にも参加している。報知ベルを屋外に取り付け、近隣地域の方に応援・協力の了解を得ている。また、避難誘導の地域協力メンバーも決まっており協力体制を築いている。今後、夜間訓練の実施を計画している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	内部研修、会議等で常に利用者を尊重している。基本的な人との関わり、礼儀作法を用いて日常のケアに取り組んでいる。ファイルや個人情報は、厳重に保管し、注意を払っている。	一人ひとりの権利・人格の尊重など、対人援助の基本を常に確認し合っている。12月に新人採用が有り「言葉の強化月間」と称し、お互い気づいた時は注意し合っている。呼び名は親しみと尊厳を持ち、同姓も有ることから名前に「さん」づけで呼んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的に自己決定を促す支援に取り組み、本人本位のサポートが出来るよう努めている。また、自己決定出来ない場合は、職員が察することで把握し、意向に近づけるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は共同生活に慣れすぎないように努め、支援を優先している。利用者一人一人の思いや感情を常にさせる環境作りと利用者の時間を大切にしている。本人に危険がともわなければ、可能な限り希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝の整容、外出時、気分転換等、本人の好みに合わせ、その人らしくお洒落を楽しんでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物から食事の準備まで可能な限り、利用者と職員と一緒にいる。昼食は、職員も一緒にいただき、食事の会話が弾む楽しい時間となっている。積極的に後片付けを行う利用者が増えている。	当日に有る食材から利用者と共に献立を考え、可能な範囲で準備も一緒に行っている。主食を各自で盛りつけ、好きな席に着く等、職員が自立を見守りながら共に食事をしている。時にバイキング・ピクニック等、食事を楽しむことのできる工夫・支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	家庭的な雰囲気と食事作りを心がけ、出来るだけバランスのとれた食事を提供している。こまめな水分補給も含み、体調管理に努めている。個々の嗜好、家族からの情報も参考にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	概ね、出来ている。 一人一人に合った適切な支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	身体記録を元に個々の排泄状況を把握している。トイレで排泄が気持ちよく行えるよう自立に向けた支援に取り組んでいる。	入居前のオムツ使用を減らし、現在オムツ使用者はいない。この1年でメリハパンツから布パンツへの改善者がある。水分補給をタイミングを図り促し、気持ち良くトイレ排泄するための工夫・支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、バナナヨーグルトを提供している。毎食のメニューにも配慮し、水分や運動にも力を入れている。排泄しやすい身体作りと予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ゆず湯、菖蒲湯等、季節に伴ったお湯や入浴剤を使用し、気持ちよく楽しめる環境作りを心がけている。入浴日や入浴時間に決まりはない。	利用者に無理強いすることなく、個々の入浴したい日・時間に入らせていただいている。入浴時には、一人でゆったりとくつろげる時間を設けるようにし、見守りながら入浴支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣が維持出来るよう支援し、一人一人に合った自由な休息の確保、安眠出来る環境に配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋の確認、個々に合った服薬を全職員が共有し、服薬支援を行っている。服薬前後の状況も把握し、変化が見られた場合は、主治医と連携が図れるよう体制を整えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の有する能力を把握し、自信ややりがい、張りのある生活に目を向けた支援を行っている。役割や気分転換も同様、個別に支援を行いながら、時には大勢で楽しみを分かち合う事にも気を配っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	買い物、散歩、お茶、外食等、日常的な外出支援に取り組んでいる。家族との外出、外泊、地域の催し物等にも参加している。	買い物・散歩・外食等日常的な外出や、季節の花見、地域の祭りに出かける等積極的に外出している。その時の状況に応じ、全員ではなく2、3人で外出し、一人ひとりが外出を楽しめる支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望があれば、家族の了解を得て可能な限り所持していただき、買い物等の支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族、親族との電話は、自由に行っている。本人から家族に向けての手紙は、季節に合わせ、取り組んでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースである居間には、季節を感じられる装飾にし、季節の話題に触れながら利用者と共に作成する事が多い。照明は、明るすぎず、目に優しいものを選び、全体的に家庭的な雰囲気を心がけている。	利用者が多くの時間を過ごす居間は、外の景色が一望でき、明るくゆったりした空間である。利用目的に応じてその都度、利用者と共にレイアウトを変化させて楽しく過ごせるよう工夫している。トイレ・浴室の入り口には、大きくカラフルな字で書かれた判りやすい表示がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	施設内は、ベンチを多数配置。気の合う者同士の交流の場となっている。居間にはソファや畳スペースがあり、その時々で自由に過ごせるよう工夫している。利用者が思い思いに活用出来る居心地の良い空間作りを心がけている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の馴染みの物を居室に配置し、一人の空間が居心地の良いものになるよう家族、本人と相談している。家具の配置については、動線、本人の希望を含め、工夫している。	新しい物を準備する家族の方がいるが、利用者・家族と話し合い使い慣れた物を設置している。好みの物や写真、位牌など置かれ、本人が居心地よく過ごせるよう配慮している。各部屋に光が差し明るく清潔感がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや洗面所等、場所が分かりやすいよう工夫している。共有スペースは、バリアフリーになりすぎないような家具の配置、動線を意識し、利用者の能力の維持に努めている。		